

「ドイツ演劇研究会」 (I. Terao)[J]

フランス演劇畑には「テオロス」という演劇フォーラムがあって、フランスを中心としつつも、それに限定せず、広く現代演劇を語りあう場を提供している。

ラインの彼方の光にあやかるわけではないが、2004年4月、何名かの有志で「ドイツ演劇研究会」を立ち上げた。おおむね二ヶ月に一回程度、土曜の午後に神田（専修大学）に集まったゲルマニストおよびゲルマニスティンたちが、毎回、主にドイツ現代演劇の話題の新作を地道に読み進めている。最近の作家、例えばイエリネクやカトリン・レグラなどは、いずれも頭が絞られるような難解な部分も多く、お互いに教え合うような自由な雰囲気大切にしている。

ちなみに今年に入ってから検討、あるいは検討予定の作品は、次の通りである。

- 11月：ペーター・ハントケ『*Untertagblues*』（Suhrkamp, 2003）
アーニャ・ヒリング『わたしの若く愚かな心臓』（Theater heute, Nr.4/2005）
- 9月：ポーター・シュトラウス『一方の女と他方の女』（Hanser, 2005）
カトリン・レグラ『外で吹き荒れる不気味な数字』（Theater heute, Nr.5/2005）
- 7月：ルーカス・ベールフス『バス』（Theater heute, Nr.3/2005）
カトリン・レグラ『私たちは眠らない』（Theater heute, Nr.3/2004）
- 5月：ペーター・トゥリーニの劇作品について
1998年公開の映画『ネストロイの逮捕』 解説と鑑賞
(原作ペーター・トゥリーニ、監督ディーター・ベルナー)

成果の一部は、以下のホームページに掲載しているので、ご覧頂けると嬉しいし、興味を感じてご参加頂く方があれば、いつでも歓迎致します。

ドイツ演劇研究会 HP <http://www.h2.dion.ne.jp/~iterao13/gekiken/index.htm>

寺尾 格（専修大学）

0004

作成日 : 2005/10/02